

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	キャリアガイダンス(688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	大内 香那子・安田 雄太				実 務 経 験 内 容	
					[大内]求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。 [安田]業界で制作を経験してきた。経験で培った知識・技術を活かし教育する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教 室	162 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ FOM 出版 富士通エフ・オー・エム株式会社 著 (毎授業で使用)					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1～2 回	授業の目的と振り返りシートの理解、就職活動への意識を高める
3～4 回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する、挨拶の大切さ①
5～6 回	意見をつくる個人ワーク
7～8 回	意見交換実践のグループワーク
9～11 回	自己理解、仕事理解、グループでの調べワーク
12 回	グループワークを活かし、専門学校での学びのつながりを考える
13～14 回	自己 PR が必要な理由
15 回	自己 PR 作成ワーク
16 回	前期の振り返りと自己 PR 作成の好事例共有 → 修正してみよう
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
1 回	社会人とは・学校と職場の違い、学校での過ごし方で意識すべきこと、挨拶の大切さ②
2 回	組織内でのコミュニケーションにつながる学校内での過ごし方
3 回	グループ制作と発表（プレ社会人としての、学校での過ごし方の工夫）
4 回	就活スケジュール確認と先輩への質問を考えるワーク、グループワークの説明
5～7 回	就職活動トークセッション、グループ制作と発表
8 回	ビジネスマナーってなんだろう
9 回	正しい敬語を身に付けて、就活シーンに活かそう
10～11 回	履歴書とエントリーシートの書き方、応募書類の書き方
12～14 回	面接官は何をみているのか、面接で自分を表現する準備をしよう、面接体験をしてみよう
15～16 回	1 年間での成長変化・卒業後どうなっていたいか、考えよう ガクチカを作成しよう

評価コード	11	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	映像論 (567)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	安田 雄太				実 務 経 験 内 容	
					[安田]映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像技術の基礎的な知識を学ぶ。カメラの構造や映像システムの構築など、実際の社会での用途を例にとり、理論的に理解する。						
授業形態	講義	教 室	355 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教 科 書 教 材	なし					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回：映像/基礎知識① 3～4 回：映像/基礎知識② 5～6 回：映像制作の仕事とスタッフの役割 7～8 回：カメラ技術 1（カメラ機能） 9～10 回：カメラ技術 2（撮影方法） 11～12 回：カメラ技術 3（特殊撮影） 13～14 回：カメラワークの基礎 15～16 回：前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回：映像/基礎知識③ 19～20 回：録音・音声 21～22 回：映像・照明 23～24 回：ENG の仕組み 25～26 回：放送技術（無線伝送等） 27～28 回：映像とは（コンテンツの将来） 29～30 回：最新映像技術について 31～32 回：まとめ	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	編集論 (915)				教 科 区 分	専門教育科目	
					必修 / 選択	必 修	
担当教員	梅村 泰成				実 務 経 験 内 容		
					[梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。		
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標		
	2	-	-	-			
映像編集の手法・技法を体系的に学んでいく。 映像制作の過程においてポストプロダクションがどのような役割を担うのかも学んでいく。							
授業形態	講義	教 室	355 教室	補助教員			なし
教科書を中心に、実際に編集技能を学んでいく。必要に応じて、動画を見せ、実際の編集技法をイメージしやすくする。							
教 科 書 教 材	ポストプロダクション技術マニュアル【第9版】 日本ポストプロダクション協会（毎授業で使用）						

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 ポストプロダクションの役割 3～4 回 映像ができるまでの流れ 5～6 回 テレビ放送の歴史 7～8 回 映像信号について 9～10 回 タイムコード 11～12 回 VTR の仕組み 13～14 回 映像特性 15～16 回 映画鑑賞 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期のまとめ 19～20 回 編集の方式 21～22 回 オフライン・オンライン編集について 21～24 回 リニア・ノンリニア編集について 25～26 回 さまざまなカット割りにについて 27～28 回 イマジナリーラインについて 29～30 回 音の編集について 31～32 回 まとめ	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	制作論 (A24)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	川崎 慎也				実 務 経 験 内 容	
					【川崎】シナリオライターとしてテレビ・ラジオ番組で長年構成・台本を担当。培ってきた演出力で講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像制作において、必要な知識を学ぶ。特に制作全体の流れを把握することを目的とし、企画・構成などプリプロダクションの工程にあたる部分を重点的に学んでいく。						
授業形態	講義	教 室	162 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教 科 書 教 材	世界一わかりやすい動画制作の教科書・映像メディアのつくり方 株式会社技術評論社 小島真也 著（授業内で適宜使用） 【新版】映像制作ハンドブック 玄光社 ビデオサロン編集部（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 映像制作の歴史 2～4 回 映像制作の基礎知識① 5～6 回 映像制作の基礎知識② 7～8 回 映像制作の基礎知識③ 9～10 回 映像制作の基礎知識④ 11～12 回 映像制作の基礎知識⑤ 13～14 回 映像制作の基礎知識⑥ 15～16 回 映像制作の基礎知識⑦ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 前期の復習 19～22 回 映像制作の応用知識① 23～24 回 映像制作の応用知識② 25～26 回 映像制作の応用知識③ 27～28 回 映像制作の応用知識④ 29～30 回 映像制作の応用知識⑤ 31～32 回 まとめ	

評価コード	3
評 価 方 法	・ 定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・ 追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・ 前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	音響照明論 (A31)				教 科 区 分	専門教育科目	
					必修 / 選択	必修	
担当教員	安田 雄太				実 務 経 験 内 容		
					【安田】業界で制作を経験してきた。経験で培った知識・技術を活かし教育する。		
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標		
	2	-	-	-			
映像制作においては、映像そのものだけでなく、音響と照明が作品の質を大きく左右する重要な要素となる。これら音響と照明の基礎知識を丁寧に学ぶことで、映像表現に与える影響や、それぞれの役割を深く理解する。特に、音響と照明が映像とどのように相互作用し、作品の魅力や感情表現を高めるのかを実践的に学び、効果的な演出に繋げる力を養う。							
授業形態	講義	教室	162 教室	補助教員			なし
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後にまとめの解説を行う。							
教科書 教材	なし						

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 科目のガイダンス（音・光とは） 3～4 回 照明の仕事と基礎知識 5～6 回 「舞台照明」と「映像照明」の違い 7～8 回 基本の「3 灯(点)照明」 9～10 回 音響の仕事と基礎知識 11～12 回 「録音部」の基礎知識 13～14 回 マイクロフォン（構造的分類、指向別分類、用途的分類、代表的なもの） 15～16 回 ケーブル、コネクター、その他小物（マイクスタンドなど） ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 基本の「3 灯(点)照明」 19～22 回 人物ライティング 23～24 回 物撮りライティング 25～26 回 照明機材の種類と基本 など 27～28 回 マイクロフォンによる收音（録音）方法 29～30 回 ミキサーの取り扱い 31～32 回 フォーリー	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	映像制作実習 1 (A27)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	安田 雄太・梅村 泰成				実 務 経 験 内 容 [安田] 業界で制作を経験してきた。経験で培った知識・技術を活かし教育する。 [梅村] 放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	10	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像制作を行うためにはどんな技術が必要で、どのように制作を進めていけばいいのか、実際に機材を扱いながら映像制作を実践的に学ぶ。映像/音声/照明の映像制作に必要な技術を包括的に学ぶ。						
授業形態	実習	教 室	162 教室	補助教員	なし	
形態は実習形式で行う。機材の扱い方や技法を教える。また、グループワークを行い、必要に応じて適宜講義を行っていく。						
教 科 書 教 材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～6 回 ガイダンス(映像制作について説明) 7～20 回 映像制作におけるカメラ基礎技術① 21～30 回 映像制作におけるカメラ基礎技術② 31～40 回 映像制作におけるカメラ基礎技術③ 41～50 回 映像制作における照明基礎技術① 51～62 回 映像制作における音声基礎技術① 63～74 回 映像制作における音声基礎技術② 75～80 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 81～91 回 前期授業振り返り、後期授業についてガイダンス 92～102 回 映像制作におけるカメラ技術① 103～113 回 映像制作におけるカメラ技術② 114～124 回 映像制作における照明技術① 125～135 回 映像制作における照明技術② 136～146 回 映像制作における録音基礎技術① 147～157 回 映像制作における音響基礎技術① 158～160 回 後期まとめ	

評価コード	13	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	映像編集実習 1 (A29)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	吉廣 萌				実 務 経 験 内 容	
					[吉廣]ブライダル編集業務に携わってきた経験を活かし、編集のノウハウを実践的に教育する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	6	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像編集のフリーソフトを扱い映像を編集しながら、操作方法を学ぶ。 ノートパソコンを用いて、映像のテンプレート作成など行う。 また、授業内で映像を編集し、作品制作を行う。						
授業形態	実習	教 室	162 教室	補助教員	なし	
スマートフォン、ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。						
教 科 書 教 材	Premiere Pro よくばり入門・Affter Effects よくばり入門 インプレス 金泉太一 著 貸与ノート型パソコン（授業内で使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～4 回 前期授業概要説明、映像編集について 5～10 回 映像編集ソフトを用いた動画編集技術の基本 11～20 回 動画の種類に応じた編集の基礎 21～30 回 動画効果を用いた編集基礎 31～34 回 BGM・SE を効果的に活用した編集基礎 35～38 回 動画編集実習① 39～42 回 動画編集実習② 43～48 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 49～52 回 後期授業概要説明、前期の復習 53～56 回 動画の種類に応じた編集の実践 57～63 回 動画効果を用いた編集実践 64～70 回 BGM・SE を効果的に活用した編集実践 71～77 回 エフェクト・音編集について 78～84 回 動画編集実習③ 85～91 回 動画編集実習④ 92～96 回 後期まとめ	

評価コード	13
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア科 1 年

科 目 名	コンピュータ実習 1 (917)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	酒井 麻里				実 務 経 験 内 容	
					[酒井]グラフィックデザイナーとして広告全般を制作してきた実績をもとにコンピュータの知識・技術を活かし指導する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	4	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
Word、Excel、PowerPoint の基本操作を習得し、今後の映像音響分野で使われる、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを養う。また Photoshop、Illustrator など Adobe ソフトウェアも学ぶことで、より精度の高い資料を制作するスキルを習得し、プレゼンテーション能力も高める。						
授業形態	実習	教 室	162 教室	補助教員	なし	
前回の復習を最初に行い、次に進めていく。使用するソフトウェアの基本スキルを習得し、出された例題をこなすことで操作方法を深めていく。ある程度できるようになったら、課題を与え、提出させる。						
教 科 書 教 材	世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 技術評論社 ピクセルハウス 著 貸与ノート型パソコン（毎授業内で使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1 ～ 2 回 コンピュータの環境設定、基本操作の確認 3 ～ 4 回 Word の基本操作 5 ～ 10 回 文章の作成と編集・表、画像の挿入(資料作成課題) 11 ～ 12 回 Excel の基本操作 13 ～ 18 回 数値の入力と編集・セルの編集・表計算・グラフ制作(資料作成課題) 19 ～ 22 回 プレゼンに関する基礎知識 23 ～ 24 回 PowerPoint の基本操作 25 ～ 30 回 文字の入力・表、画像、図形の挿入・アニメーションの制作(プレゼンスライド作成課題) 31 ～ 32 回 前期まとめ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 33 ～ 36 回 前期復習・プレゼンテーション準備 37 ～ 38 回 プレゼンテーションの実施① 39 ～ 40 回 Illustrator の基本操作 41 ～ 48 回 図形、線の制作、編集・文字の編集・イラスト、アイコンの制作・レイアウト基礎(資料作成課題) 49 ～ 50 回 Photoshop の基本操作 51 ～ 57 回 画像の編集、加工、補正、合成(画像編集課題) 58 ～ 62 回 Illustrator&Photoshop の応用(広告作成) 63 ～ 64 回 プレゼンテーションの実施②	

評価コード	13	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	